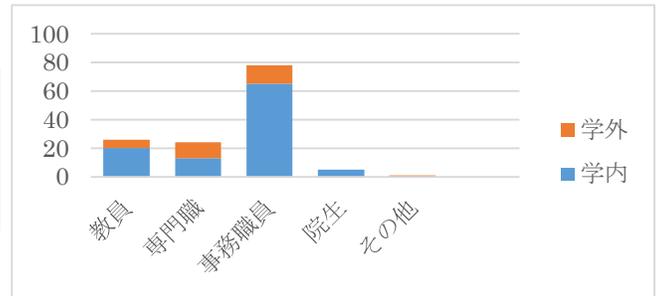


# 鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム 2015 アンケート報告

## 参加人数 (人)

	教員	専門職	事務	院生	その他	合計
学内	20	13	65	5		103
学外	6	11	13		1	31
合計	26	24	78	5	1	134



## 学内参加内訳 (人)

医歯学部	教育学部	水産学部	農学・ 共同獣医学部	法文学部	理工学部	臨床心理学研究科
7	11	2	2	8	11	9
教育センター	留学生センター	保健管理センター		障害学生支援センター		
2		1		15		3
総務部	学生部	研究国際部	財務部	学術情報部	役員	
10	9	7	1	3	2	

## 1. ご所属を教えてください。(アンケート回答率)

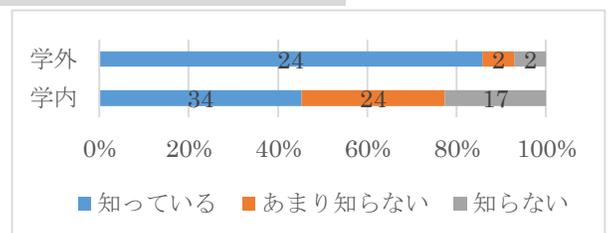
	教員	専門職	事務	院生	その他	なし	合計
学内 (人)	14	9	43	4	1	4	75
学外 (人)	5	10	13				28
合計	19	19	56	4	1	4	103
学内回答率 (%)	70.00%	69.23%	66.15%	80.00%			72.82%
学外回答率 (%)	83.33%	90.91%	100.00%				90.32%

## 2. このシンポジウムをどこでお知りになりましたか?



## 3. 平成 28 年 4 月より障害者差別解消法が施行されますが、ご存知ですか? (グラフ数字 (人))

	知っている	あまり知らない	知らない
学内	34	24	17
学外	24	2	2
合計	58	26	19



#### 4. 基調講演の感想をお聞かせください。(人)



##### 学内

- ・丁寧な講演で分かりやすかった。(教員)
- ・障害学生支援に対する新しい知識と具体的な取り組みについて大変分かりやすい講演で、理解しやすかった。具体的支援については各人各様で本人との十分な話し合いが必要だと知ることができた。(専門)
- ・障害のある学生が増えているとあった。実際は単に数が増えただけでなく、昔であれば「問題児」とされていた人たちが社会の意識の変化により障害と認められるようになるなど、「障害」とされる範囲が広がったこともあると思う。日々新たな名前が生まれる。「ハラスメント」同様、今後も「障害」とされる範囲は広がっていき、それと共に支援を必要とする学生も今よりもっと増えていくことが考えられる。多岐にわたるニーズにどう対応していくか、最初の体制作りは重要になっていくだろう。(事務)
- ・大学でのこれからの取り組みを考える良い機会になった。(事務)
- ・障がい別に説明があり分かりやすかった。(事務)
- ・「障がい」といっても診断書があるもの、そうでないものと、本当に様々な障がいがあり、それに対応する個別の支援が今後必要になっていくことが実感できた。東北大学の事例も具体的に教えて頂き、勉強になった。とてもデリケートな部分もあるので、職員側の意識も大切だと思った。(事務)
- ・具体的な大学での支援の実際を聞くことができ良かった。実際に行う支援の現場では手探り状態で始めたところもあったため、共感することが多くあった。(専門)
- ・配付資料の字をもっと大きくしてほしかった。(なし)
- ・対応要領策定等、理解できた。(事務)
- ・法律のことなど、よくわかった。(専門)
- ・対応要領などを含み、今後大学に求められる体制などが変わりやすかった。(専門)
- ・大学として専門部署と各部署の連携が重要になってくることを理解でき、大変いい講演だった。ありがとうございました。(事務)
- ・具体例のある話で自分たちが同じ立場の時にどのように対応するべきかを考えやすく、分かりやすかった。(なし)
- ・障がい学生支援が必要な(行わなければならない)社会的背景、大学として行うべきこと、個別の障がいの支援の具体的内容がすべてにおいて認識を新たにした。(教員)
- ・合理的配慮について東北大学の事例を知ることができて勉強になった。(事務)

- ・障害学生支援という大きな流れの中で、各大学で個の学生にどんな支援をしていくべきかという新たな視点を得ることができた。(院生)
- ・学生の何が問題になっているのか細部までよくわかった。(教員)
- ・少し知ることができた。具体的なイメージがわいた。(その他)
- ・目に見えない対人恐怖症などの対応は、非常に難しいですが、障害差別解消法の施行等により今後良い方向に向かうと思った。(なし)
- ・「対応要領」について初めて知った。(事務)
- ・合理的配慮について詳しく聞くことができ、大変勉強になった。さらに東北大学での具体的な取り組みを知ることができ貴重な時間だった。(専門)
- ・他大学の取組を知ることができなかった。障害の種類や程度によって、支援の仕方が変わるため、様々な事態を想定しなければならないと感じた。本人が求める支援を確認する必要があるが、大学側の支援にも限界がある。(事務)
- ・興味深かった。法改正がよくわかった。質問時間が取りづらかったのが残念。(いろいろ質問をしたかったので)後半は、パネルディスカッションに入れ込んで、3つをプレゼンする形もあったのでは？(講師の負担軽減)(教員)
- ・東北大学の事例を聞いたのは良かった。(事務)
- ・国の取り組み、大学の取り組みとしてやるべきこと。東北大学の事例が具体的だった。(専門)
- ・支援の実際の対応を聞くことができ良かった。(事務)
- ・事例が分かりやすかった。(事務)
- ・障害者差別解消法の施行までの大学内での手続きの流れを理解できたことが良かった。(事務)
- ・障害者権利条約に対する国立大学における合理的配慮について理解を深めることができた。規定などの整備もあるが、実際は学生の個別対応に配慮が必要。(事務)
- ・一般にも分かりやすく説明して下さり聞きやすかった。(教員)
- ・テーマについて全体的、一般的事柄と併せて、個別の事例についてもお聞きでき、概要がつかめた。(教員)
- ・東北大学における支援の取り組みの内容がよくわかった。大変、お世話になりました。(事務)
- ・発達障害・精神障害の多様性、それに対するサポートの多様化の必要性、専門部署との連携体制の必要性、現実直面する問題をわかりやすく説明頂いた。障害を持たない学生への対応なども必要であり、学生支援のあり方を学ばい

い機会となった。(事務)

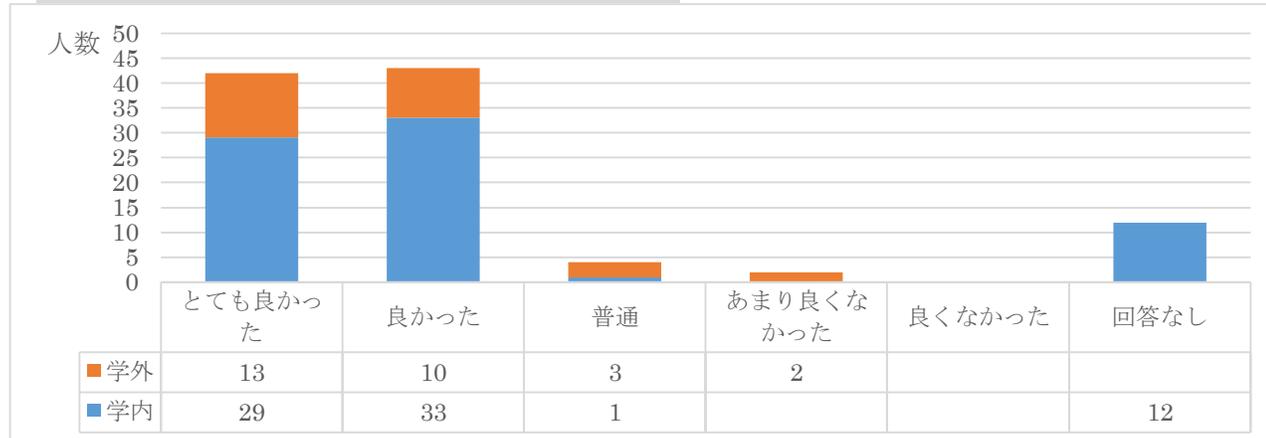
- ・障害のある学生を支援する学生支援も重要になると思った。(支援の実際になる場合)下手をすると周りの学生へのハラスメントやつきまといに発展しかねない。(教員)
- ・具体的で分かりやすかった。(事務)
- ・障害者差別解消法の流れと対応を理解できた。(教員)
- ・「何が」「どこまでが」合理的配慮というのは、大変難しい問題であると感じた。支援の実際のお話があり、具体的で大変分かりやすかった。(院生)
- ・タイムリーな国の政策と実際を知ることができた。(院生)
- ・学生支援についてのこれまでの流れを説明頂き、勉強になった。サービスでなく義務。(なし)
- ・実践的内容で参考になった。(事務)
- ・大変分かりやすく、もう少し時間があれば、さらに詳しく聞けたのではないかと。(専門)

#### 学外

- ・時間が足らなかった。(専門)
- ・東北大学での実践や事例を交えて、大変貴重な学びを頂いた。ありがとうございます。(事務)
- ・いろいろな支援を学ぶことができた。(事務)
- ・障害者差別解消法に関し、理解を深めることができ、また東北大学における実践など、今後の課題について明確にすることができた。(事務)

- ・制度について詳しく説明頂き分かりやすかった。(専門)
- ・詳しい解説で理解が深まった。具体的な支援の事例がわかり、今後の参考になった。(事務)
- ・保健現場で追われている私にとって、文部科学省の動き、「対応要領」など、理解できた。(専門)
- ・対応要領策定の情報を得られてありがたかった。(専門)
- ・本学が行っている支援に近いものが多く、とても参考になった。もっと、支援内容や組織作りを充実させていくヒントがたくさん得られる講演であった。(専門)
- ・対応要領作成に当たっての位置づけや内容について、今後の参考となった。(事務)
- ・本学では、未だにどう対応すべきか方向性すら決まっておらず、先進大学の状況を参考にしたいと、参加しました。とても参考になり、今後、どう取り組まなければ、ならないかアウトラインが見えてきた。(事務)
- ・障害学生支援の社会的背景や大学の課題について理解することができた。(事務)
- ・精神障害の対応がわかったように思う。(専門)
- ・東北大学の取り組みがよくわかった。合理的配慮申請のルートもイメージすることができた。(教員)
- ・障害学生支援に関する社会的背景が、法律を含め整理して説明して頂いた。その流れとこれから本学においてすべきことがはっきりとして来た。(教員)

### 5. パネルディスカッションの感想をお聞かせください。



#### 学内

- ・パネルディスカッションの時間が確保できると良かった。(教員)
- ・川池先生の発表は、とても生き生きとして明るくて大変聞きやすかった。パワーポイントの作成も情報が見やすく、理解しやすかった。ありがとうございます。松浦先生の発表は、現在私が精神科病院でお会いしているCLへの対応について本当に参考になった。シンポジウムに参加して良かった。(専門)
- ・様々な事例を聞くと「質の保障」と「障害の支援」の両立がいかに難しいかわかる気がする。解決するのは、本人を変えるのではなく、周りが変わることが重要だと思

- う。一昔前の感覚だと「変な人」「危ない人」「ダメな人」とされていた人たちは実際にはそうではないのだと認識を改める必要があると思えた。個々人の中にこびりついている常識をいかに変えていけるかが大切だと思う。(事務)
- ・学生にとって相談できる場所を作ること、受け皿を作ること大事だと思った。(事務)
- ・具体的な支援(実際に行った)の内容を教えて頂いて、そういう支援もあるなと思った。色々なアプローチの仕方があること学べて良かった。職場での学生対応の仕方、自分の心構えの参考になった。(事務)
- ・学生それぞれの特徴を理解した上で支援の難しさを再確認した。(専門)

- ・学生支援体制の実際の説明が分かりやすかった。(事務)
- ・具体例があり良かった。保健管理センターの細かな対応に感心した。(専門)
- ・実際のケースなど具体例が分かりやすかった。(専門)
- ・事例発表が大変分かりやすく想像できた。(事務)
- ・障害のある学生をどういうふうに関わっていけばいいか分かりやすく説明をして頂き、大変勉強になった。(事務)
- ・障害を抱える学生に対して、そのように対応していけばいいのかを非常に考えることができた。(なし)
- ・障害を持つ学生への対応や課題について様々な知識を得ることができた。安定就労に向けて私たち教員は何ができるのか改めて考えてみたいと思った。(教員)
- ・パネラー2名の講演が今後の学生対応する上で、学生の指導や見極めをする上で非常に勉強になった。(事務)
- ・先生方に質問をしたいことがありましたが、お時間ということで、非常に有意義なディスカッション。(事務)
- ・現状としてどんなことが行われているのか、学内にいながら知らなかった。心理学という視点をどう生かせるか考えるきっかけとなった。(院生)
- ・障害学生支援センター、保健管理センターの取り組みがよくわかった。(教員)
- ・心強く感じた。(なし)
- ・就職の問題は難しいと思うが、手帳などの交付により少しでも解決に向かえると良い。(なし)
- ・川池先生のご発表、本学のご担当として色々な取り組みをされていることがわかり、大変有意義。ありがとうございました。(教員)
- ・鹿児島大学の取り組みの現況も具体的にわかり、大変勉強になった。(教員)
- ・障害を抱えた学生の支援策についてもとても勉強になった。最終的なゴールが「安定した就労」というのはその通りだと思った。(事務)
- ・具体的に事例紹介を交えながら、障害学生の特徴や対応に関するヒントを得ることができた。視点を当該学生さんに合わせる努力、理解する姿勢が必要だと思った。(事務)
- ・障害学生に精神、発達障害のある学生の対応は、各学部では難しいことがよくわかった。保健管理センターや障害学生支援センターを強化する必要がある。(教員)
- ・学生への現状に基づく支援の内容を知ることができて良かった。見極めはかなり困難であると思った。相手、環境に応じた対応が必要。(事務)
- ・分かりやすかったが時間を長くしてほしい。(事務)
- ・リズムカルで興味深く分かりやすかった。(教員)
- ・事例があったので具体的で分かりやすかった。(院生)
- ・①本学の支援の有様、システムを知ることができた。②本学の心理面の対応の実際を知ることができた。(院生)
- ・支援のあり方が立場・職種により違い、この先生だからできるというやり方もあるので、聞いている方がどこまでそれを理解されたか少し気になった。(なし)
- ・事例が詳しくとても分かりやすかった。具体的にイメージしやすかった。(事務)

- ・実態が理解できた。(事務)
- ・実体験を教えて頂いたので、分かりやすかった。(事務)
- ・学内の現状、個別の支援のあり方などは良く理解できました。加えて、今後、各部署のスタッフそれぞれはどこに力を入れて責任をもって対応すべきなのかという点が議論となれば良いかなと思いました。(教員)
- ・実際にケースに対応した事例が聞けて参考になった。(事務)
- ・時間の関係が少し駆け足のようでもっとじっくりお話を聞きたかったです。スライドが見やすかったです。(院生)
- ・ディスカッションの時間が・・・。(教員)
- ・先生方のお話も中身が充実されていたので、お時間が足りなかったのではないかと思います。大変勉強になりました。(専門)

**学外**

- ・時間が足らなかった。(専門)
- ・鹿児島大学での“つまずき支援”への細やかな支援は大変参考になった。障害だけでなく、学生の生きづらさの原因はなににかきちんととらえたい。ありがとうございました。(事務)
- ・いろいろな支援を学ぶことができた。(事務)
- ・各専門分野からの先生方の具体的なお話を聞くことができて勉強になった。(事務)
- ・具体的事例が良かった。(専門)
- ・時間配分の調整が必要だったのではないのでしょうか？(内容にはとても満足できました。)(事務)
- ・論点整理をやってもらえたら良かった。(教員)
- ・鹿児島大学を含め、どこの大学も障害学生支援の体制は、まだ整備中であり、苦労されていると知り、今後ますますがんばっていく必要があると感じた。(事務)
- ・現場で実際取り組んだ事例は大変参考になりました。あきらめず、本人合意を得ながら、チームで関わって行きたいです。(専門)
- ・鹿児島大学の保健管理センターの活動、臨床場面のお考えがよくわかり、違う視点から発見があった。(専門)
- ・川池先生のお話では、鹿児島大学の支援体制を聞くことができ、参考になりました。松浦先生のお話は、障害学生の特徴や支援策について知ることができ、今後の対応に活かしていきたいと思いました。(事務)
- ・就労支援についてももう少し具体的な話を聞きたかった。非常に支援の難しさを実感しています。(事務)
- ・心理的サポートは大変参考になりました。ただ、授業担当教員との連携からみた面についての話があまりなかったのが残念です。今後は、チームによるものが大切なので、授業担当教員、事務側との調整をどのように誰がされるのか、そのあたりも必要だと思います。(教員)
- ・時間が足らなかった。(教員)
- ・鹿児島大学さんの支援状況などをご報告頂き、大変参考となりました。(教員)

6. 障害を有する学生やつまずきのある学生との関わりの中で、困った経験等があれば、お書きください。(実名等は明記しないでください)

**学内**

- ・連携について (教員)
- ・障害を持ちながらも本人は、問題意識が全くなく、援助を必要としていない。そのために周囲が非常に困惑したり、疲労してしまう事例があり少々困った。(専門)
- ・発達障害傾向の学生については困り感のない学生も多く、対応の難しさを感じる。(専門)
- ・いろいろな学生がいて大変。(なし)
- ・(リハ医なので) 事故後の下肢不自由、高次脳機能障害のある学生の復学に困ることが多い。(専門)
- ・以前、勤めていた職場で、アスペルガー症候群の卒業生と仕事をしていて、対応に困ることが多くあった。松浦先生の事例発表のように、言葉が出ない、思ったことをそのまま言ってしまう。一方でパソコンはとても得意だったり、任せられる仕事と任せられない仕事があり、つきっきりだったがお互い慣れると余裕ができ、ある程度ゆったりと見守れる事ができるようになった。(事務)
- ・学生の接し方や話し方について考える事が多くある。(事務)
- ・障害を有する学生に配慮が必要ない、しないでほしいと行ってきた場合に、どう対応すればよいか困ったことがある。(事務)
- ・音声情報は抜けてしまう。緊張、不安が対人関係の中で高い学生を受けもっている。今回のパネルディスカッションのお話は大変参考になった。(教員)
- ・傾聴、共感しながら話をするため学生の話がまとまらない。(事務)
- ・伝えたいこと、知りたいことがうまく読み取れないことがあった。(事務)
- ・本人の夢、希望と実際の現場(臨床)の厳しさ、本人のコミュニケーション能力の不足などにギャップが大きく指導(進路)に困った。(教員)
- ・見てわかる障害(肢体・視覚)の学生への声かけのタイミングが難しい(「自分でできる」と断られる。職員としてどこまで助けてあげられるか)。入学時(入試)の情報の取り扱い。末端のスタッフまである程度、把握する方が良いのか判断が難しい。(事務)
- ・支援をしすぎることで本人のできる事の妨げになっているのではないかと考える事がある。難しく思う。(専門)
- ・あまり知識がなく自分の対応が問題なかったかなど不安にある。どこまで関与するべきか迷う。(事務)
- ・障害を隠して生きてきたケース。どのケースも受容が難しい。本人が苦しい。(事務)
- ・ワークショップ時の必要な場面に人とのコミュニケーションをとれない。その後の授業に来れないなど。(専門)
- ・突然、寄生をあげながら、事務室に入ってきた。何に困っているのか、対応が分からず困った。(事務)

- ・文書の説明(通知文等)では理解できず、(細かいところを心配して)何度も足を運んで聞きに来る学生がいた。レポートの書き方が分からない等も。(事務)
- ・障害を有する学生は、健常者よりも自立していると感じることが多く、手助け支援をするタイミングに戸惑うことが結構ある。(事務)
- ・発達障害のある学生の相談に対応したことがあったが、障害に対する認識が低かったため障害に苦慮した経験があった。(事務)
- ・外国人の場合、知識不足に加え、言語の問題、文化の問題があった。(教員)
- ・特に発達障害のある学生については4年で平等にすることを求めないで必要な期間、(センターなどで決めて)授業料を免除して在籍できるようにしてほしい。(教員)
- ・卒業はできたが国家試験に合格できない、できそうにない学生がいる。(教員)
- ・困っていることがあれば手伝ってあげたいが、本人はあまり気にしていないようで、そのままになる。(事務)
- ・職員として就職している場合には対応に苦慮。(事務)
- ・論文テーマ決定まで時間がかかる。保護者とのタイミングでどこまで連絡を取って良いのか。指導に対して攻撃的に反応してくる学生の対応。(教員)
- ・高度難聴学生を担当したが、ほぼ問題なかった。特殊なマイクと補聴器を使用(教員)
- ・個々でニーズが違うため、どう対応するか、支援者としてのスキル不足を感じる事があります。(専門)

**学外**

- ・学生の気分のムラが激しく振り回されることがある。(専門)
- ・学内の相談体制や支援体制の整備が遅れており、面倒見のよい教員の良心に任されているところがあり、負担が多い。全学的な組織作りの難しさを感じている。(事務)
- ・情報共有、横とのつながりがうまくできない。(事務)
- ・保護者の理解を得られないケースは限界を感じている。本人合意を得ながらチームで関わって行きたい。(専門)
- ・就活先の行政機関(地方市役所)での配慮に欠ける行為。エントリーシート面接などの就活のフローでの進捗学業との両立。本人の特性と合致しない就職先の希望(専門)
- ・卒論の変更に調整が困難であること。(専門)
- ・教職員への理解。やはり数名はどうして高等教育機関でこのような支援をしなければならないのか?とストレートに言われる方がいる。(専門)
- ・相談員への相談をすすめ予約させたが、来室しなかった。音信不通となってしまう、どうすればいいか困っています。(相談を自分が受けなかったことに悩んでいました。)(専門)

- ・発達障害であることを知らなくて窓口対応の際、ルーズな学生なのかと少し強く指導してしまったことがある。全教職員が情報共有できるわけではない。(事務)
- ・配慮申請について、ご本人(学生)のニーズを整理し、担当教員や事務と共有していく中で、ご本人の許可がないものは伝えられないが、周りは求めている状況に対して、どう対応するかが難しいです。(教員)
- ・実習(教育・病院など)における対応。(教員)

- ・てんかんの持病をもった学生がいたが、本人の希望により、前任の学生部長と前任の保健室職員しか知らず、後任の教員へ引き継ぎがなかった。2年生に進級後病状が悪化し、学校に来れない状態が続く、担当教員が本人と面談したところ、てんかんを公表し、単位取得に向けて支援チームを立ち上げ、支援を始めた。情報の共有ができなかった点、守秘義務の点で困難な事例であった。(専門)
- ・本人の困り感はないが、成績が低迷。本人の困り感を保護者が理解せず、支援依頼につながらない。(教員)

## 7. その他ご感想やご意見、今後講演で取り上げてほしいテーマがありましたら、ご記入ください。

### 学内

- ・窓口、教員それぞれの役割について(教員)
- ・文字通訳の難しさが分かりました。(事務)
- ・お一人お一人の先生方が専門的知識とその先生方のあふれる個性においた人間性として、楽しく分かりやすい、講演をして下さり、本当に充実した時間を過ごせました。(専門)
- ・その先生も関わった学生に非常に親身に対応し、彼らの事を考えていることがよく分かった。どのように対応すれば良いと決まっているのではなく、それぞれの相談者に合わせて日々対応されている先生たちに頭が下がる思いでした。(事務)
- ・鹿児島大学にオストメイト対応トイレや障害者が使えるトイレが多くできており安心しました。段差の解消もお願いします。(専門)
- ・手話やPCを実際に使用した講演を初めて受けましたが、このようなバリアフリー化が増えていくだろうと感じた。多くの学生が学びやすい環境になるのだと感じました。(専門)
- ・つまずきのある学生の情報の共有についてどこまですれば良いかすべきなのか考えさせられました。大変勉強になりました。ありがとうございました。(事務)
- ・具体的なケースを元にした事例集などがあるとより一層理解が深まるのではないかと思います。(教員)
- ・今後の仕事に大いに役に立つシンポジウムでした。(事務)
- ・今日は、参加してとても良かった。問題解決のヒントになるような事を希望します。(その他)
- ・手話やPC要約筆記を体験でき、うまく聞き取れない時はPC要約筆記を体験でき、うまく聞き取れない時は、PCをみれば良かったのでとても聞きやすかった。(専門)
- ・平成28年4月までに対応要領を策定しなければならぬが、国の原案が提示されておらず、間に合うのか(入試等の繁忙期に対応することになるのか)不安です。(事務)
- ・貴重な機会ありがとうございました。役職上4時間30分を空けるのが困難で部分参加になりました。(教員)
- ・手話通訳、文字通訳についてとても有効である。講師の言葉の聞き取りづらい時など健常者の支援にもなる。個別の対応、支援の仕方を学ぶ必要がある。その機械をFD、

SD、自主的な学びでもセミナー等で行うようにしてほしい。当事者との交流も必要(専門)

- ・文字通訳が実際にどのように行われるか初めて拝見しました。(教員)
- ・良き学びの機会に感謝申し上げます。(教員)
- ・他大学の抱えている課題、それぞれ解決策など共有できるパネルディスカッションがあるといい。(教員)
- ・対応要領を作成する場合は合理的配慮の範囲、必要以上に教職員、学生に負担を増やさないように配慮する必要がある。各学部・に障害学生支援員を置く必要がある。(教員)
- ・ありがとうございました。(なし)
- ・指導教員が気をつけること、学生係が気をつけること、就職関係の職員が気をつけることなど、担当や職種ごとの研修など(教員)
- ・今回大事なテーマを取り上げて頂いて勉強になった。今後もこのような研修会をしてほしい。(事務)
- ・PC要約筆記には感心いたしました。スタッフの方お疲れ様でした。手話の方お疲れ様でした。(教員)
- ・先生方の話は興味深く、自分も子供がいるので、大変勉強になりました。保健管理センターでの活動も知ることができ、最近の傾向も知ることができて良かったです。ただ、スクリーンや資料の文字の大きさをもう少し大きくしてあると分かりやすかったです。(事務)
- ・もう少し時間を長くしても良いのではないかと思います。共に生きるために大学としてどのようなことができるのか、学内で共有できる機会があればと思いました。(専門)

### 学外

- ・大学での支援のお話を聞き、ハローワークの立場として就職のサポート、1人1人の強みを生かした支援ができればと思いました。(専門)
- ・対応要領に盛り込む合理的配慮等の具体例の検討について(事務)
- ・特にありませんが、今後講演会の案内を頂きたいです。よろしくをお願いします。(専門)
- ・支援実例をあげての対応のディスカッション。ありがとうございました。(事務)
- ・今回の時期を得たシンポジウムの実施。並びに学外へのお知らせを頂きありがとうございました。今後とも情報の共有化をお願いします。(教員)